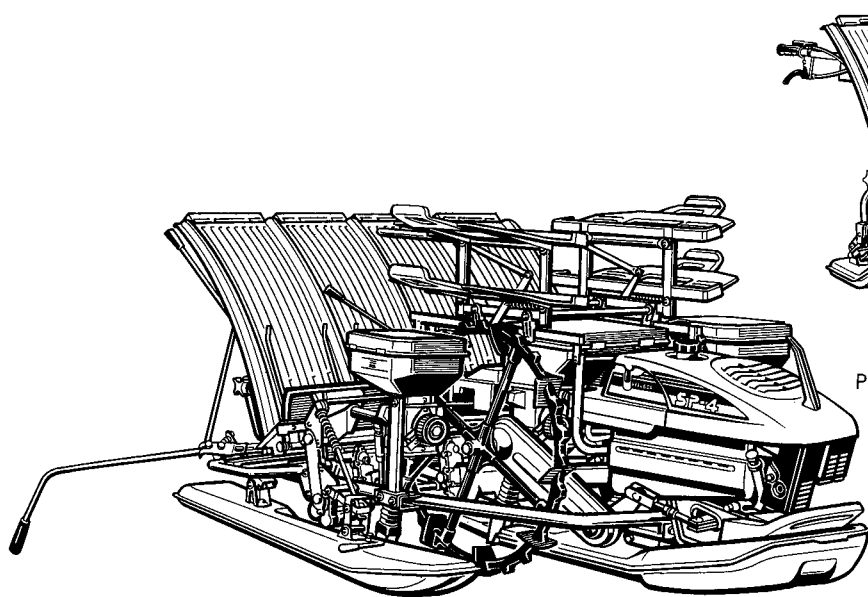
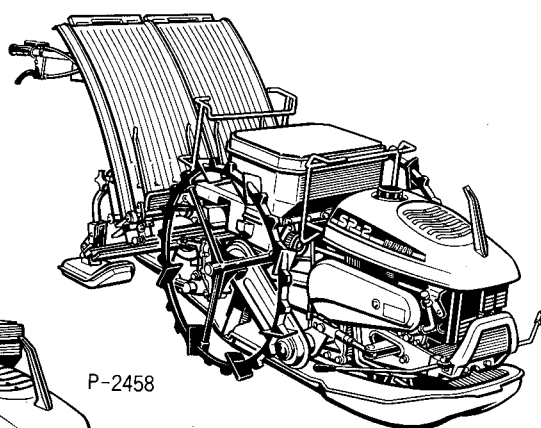
クボタ施肥田植機

施肥装置取扱説明書

RAINBOW

SP-2F 4F

P-2458
P-2459

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

はじめに

このたびはクボタ製品をお買いあげいただきましてありがとうございました。
この取扱説明書は，施肥田植機について，特に異なる部分の取扱い方法，簡単な点検および手入れについて説明してありますのでその他の説明については，別冊の取扱説明書をご覧ください。（別冊と異なる部分は，必ずこの取扱説明書を優先してご活用ください。）
この取扱説明書は製品の正しい取扱い方法，簡単な点検および手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいて十分理解され，お買上げの製品が秀れた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになった後必ず大切に保存し，分からないことがあったときには取出してお読みください。なお，製品の仕様変更などにより，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げの販売店に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

■注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

重　要：　注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

補　足：　その他，使用上役立つ補足説明を示します。

施肥田植機の使用目的

◆省 力 化 ——— 農繁期の労力軽減

(1)田植と基肥施肥の同時機械化作業により，作業能率の向上がはかれます。

(2)基肥施肥と追肥１回分計２回分(約１時間/10a)の施肥時間が省略できます。

◆省 資 源 ——— 基肥の有効利用

(1)作溝施肥してすぐふく土するので，肥料成分の溶出を防ぎ，溶出分の肥料が節約できます。(20～30％の基肥減肥が可能)

(2)追肥１回分の量も省略できます。

◆稲作安定

苗の横下方に側条施肥するので，初期生育の促進がはかれ，有効茎の確保と適正な追肥などで稔実がよくなり，安定多収につながります。

◆公　害(水質汚濁)防止

肥料成分(特にチッソ・リン)の溶出が防げるので，水路・河川の水質汚濁が防げ，ひいては湖沼・湾などの赤潮発生の防止に役立ちます。

補　足

＊上記４項目のうち，いずれが重点かは，各地域によって異なります。

特長

1．市販の**粒状肥料**が使えるので便利です。
2．肥料ホッパを車輪上方に配設してあるので**軽量で機体のバランス**が良く，運転・取扱いが楽です。
3．**ホッパが透明**で各条ごとに仕切板付きですので，肥料の残量確認が容易で，補給のタイミングがわかります。
4．施肥量調節は**ダイヤル**を回すことによって簡単に行なえます。
5．**植付けと施肥が連動**できる動力伝達方式ですから操作が楽です。
6．植付け条数に合わせて施肥できる**各条停止機構**付きですから，あぜぎわ・枕地植えに便利です。
7．植付け部に対し前側条施肥ですから植付け姿勢を乱しません。
8．**開放形作溝器**ですから，肥料づまりの心配がありません。
9．ワラ・堆肥などが付着しない**溝切板(夾雑物押込板)**付きです。
10．ロールスライドによる**残量排出ワンタッチ**機構付きですから掃除がたいへん楽です。
11．施肥機装着のまま，**ボンネット開閉**が可能ですから保守点検に便利です。

使用上の注意点

機械の性能が十分発揮できるように，下記の事項を特に注意してご使用ください。

区分	No.	使用上の注意事項	注意しないときに発生する不具合事項	参照ページ
安全作業	1	肥料や苗を積んだまま移動や，自動車などへの積降ろしをしないこと。	重心が高くなって転倒し易くなったり，振動で機械の破損がおこったりします。	2ページ
	2	運搬するときに，施肥機(特にホッパ部分や,作溝器取付部分など)にはロープ掛けしないこと。	施肥機が破損したり，施肥位置が狂って，肥料障害発生の原因になります。	2ページ
	3	トラックなどへの積込み・積降ろしやあぜぎわの昇り降りのときは，転倒したり機械の向きを誤まらないよう注意すること。 (作溝器や溝切板がフロートより下方に出ているため)	もし転倒したり，機械の向きを誤ったりすると，機械が破損したりすることがあります。また，運転者や周囲の人の安全確保上支障をきたす恐れがあります。	2ページ
旋回・バック	4	旋回やバックをするときは，必ず植付け部(特にフロートや作溝器・溝切板)を地表面から上にあげてください。	作溝器へ泥が詰まって，肥料詰まりの原因になります。	17ページ
肥料	5	市販の粒状肥料のなかから，吸湿しにくい，粉の少ない，粒径の揃った硬い粒の肥料を選んで御購入ください。	吸湿し易い，粉の多い，小さい粒径の多いもの及び粉になり易い肥料は，施肥機の肥料詰まり(＝生育ムラ)の原因となります。	4，5ページ
	6	粉のあるもの 粒の小さいもの 吸湿しやすいもの }このような肥料は，使用しないようにしてください。	肥料詰まり(＝生育ムラ)の原因になります。	4ページ
	7	肥料の粒の大きさは5メッシュ(4㎜角)通過9メッシュ(2㎜角)止まりの範囲のものが，85%程度以上あるものを使用してください。	粒が小さいと肥料詰まりの原因になり，大きすぎると繰出し精度が悪くなります。	4ページ
ほ場適応性	8	ほ場の堆肥やワラなどは耕うん前に散布して，十分すき込んでおくこと。(逆転ロータリを使用すると大変良い)	作溝器に堆肥やワラを引掛けて，肥料の埋設を阻害したり，植付けを乱したり，ほ場に溝をつけることがあります。	3ページ
	9	ワラ・刈株・堆肥・雑草などは，地表面や地表面下8㎝内の表層に集中しないよう，よくスキ込んでください。	作溝器や溝切板に付着して肥料詰まり(＝生育ムラ)の原因になります。	3ページ
	10	御使用になるほ場の深さは25㎝までが適正です。	30㎝以上になると，車輪のスリップが多くなったり，旋回時にハンドルの操作が極端に重くなったり，また植付け状態も悪くなります。	3ページ
	11	ほ場の土壌硬度(125gのサゲフリを地表面上1mの高さから落下させて地表面から土中に入った深さ)は7～18㎝の範囲内とします。	●7㎝よりも硬い(数字の少ない方)ほ場ではふく土が困難です。 ●18㎝よりも軟らかい(数字の多い方)ほ場では植付け姿勢が悪くなります。	3ページ
	12	水深は0.5～2㎝の範囲にしてください。 ●水が皆無のときは走り水をしてください。 ●深水(2㎝以上)のときは水を落としてください。	●水が皆無のときはスリップが増し，作業が困難なばかりでなく，施肥過多になり生育ムラを生じます。 ●水が深すぎると作溝器内の上部やホース内に水が浸入し，肥料の落下が悪くなったり，肥料が所定の深さに埋設できなくなります。	3ページ
栽培	13	スリップが多い場合，或は逆に少ない場合には，株間が適正になるように，切換えレバーで株間をかえて使用してください。	スリップが多くなると株間が狭くなり，また，施肥量も多くなります。 逆にスリップが少ないと,株間が広くなり，施肥量も少なくなります。	3ページ
	14	健苗をつくって植えるようにしてください。	徒長苗・弱苗だと側条施肥による初期生育促進の効果がでないばかりでなく，肥料の濃度障害を受け易くなります。	——
	15	適正な植深さ(植深さ2～3㎝)のこと。	施肥深さよりも植付け深さが深いと肥料障害を受け易くなります。また，初期生育の促進もはかれません。	——

区分	No.	使用上の注意事項	注意しないときに発生する不具合事項	参照ページ
施肥機	16	作業前に{ブラシとロールのスキマ ブラシの摩耗・肥料付着 ロールの開度の揃い}の点検を行なって，各条の繰出し量を揃えてください。	各条の繰出し量が揃っていないと，施肥ムラ(＝生育ムラ)を生じます。	7，8ページ
作業	17	各行程の植えはじめは３株分程度肥料が入るのがズレますので，枕地植えを考慮に入れて，早いめに植付けクラッチを入れてください。	植付けクラッチを入れても，植えはじめと施肥はじめには３株程ズレが生じ，無施肥部分を生じます。	——
	18	苗補給や肥料補給は，できるだけ枕地で行なうようにしてください。	ほ場の途中で停止すると，肥料が多く入るところと少なくなる所ができ，施肥ムラ(＝生育ムラ)を生じる場合があります。	——
残量取出し	19	毎日作業後，ホッパ内の肥料は完全に排出してください。	ホッパ内に肥料が残ったまま放置しておくと，次の作業のとき繰出しが悪くなって，肥料詰まりや施肥ムラの原因になります。	8ページ

目 次

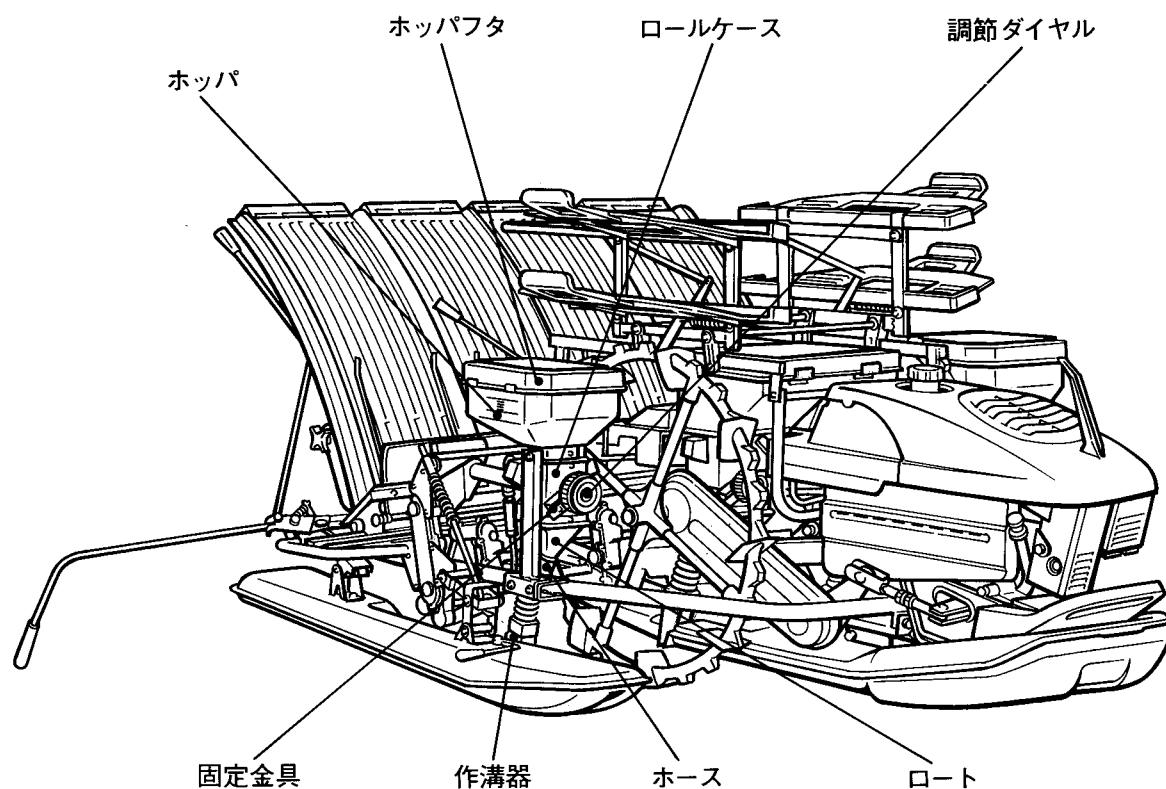
主な仕様

型式		SP-2	SP-4
区分		SP-2HDF	SP-4HDF
機体寸法	全長(作業時)(mm)	1900(1900)	2150(2150)
	全幅(作業時)(mm)	880(1050)	1540(1980)
	全高(作業時)(mm)	920(920)	970(970)
重量(kg)		97	164
エンジン		SP-2の仕様に準ずる	SP-4の仕様に準ずる
走行部			
植付け部			
施肥機	使用肥料	一般市販の粒状化成肥料の中から当社の施肥田植機に適するものを選ぶ	
	ホッパ容量(kg)	10	20
	植付条間 × 施肥条数 (cm×条)	30× 2	30× 4
	肥料繰出し方式	溝付きロール式	
	繰出し部の駆動	植付け部からの動力伝達	
	繰出し量調節	溝幅スライド式	
	繰出しロールの付加機能	①繰出し量調節　②繰出し　③繰出し停止 ④残量排出　(②③④はロールスライドによる)	
	繰出し量調節範囲(kg/10a)	10～60	
	施肥方式	側条作溝施肥・強制埋設	
能力(分/10a)		70	40

※：この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

各部の名称

SP-4HDF

ホッパフタ
ロールケース
調節ダイヤル
ホッパ
固定金具
作溝器
ホース
ロート

P-2460

運搬・移動のしかた

＊肥料や苗を積んだままの移動や，トラックなどへの積込み・積降ろし・運搬はさけてください。

＊トラックなどへの積込み・積降ろしやあぜぎわの昇り降りのときは，特に運転に注意して，転倒したり機械の向きを誤らないように注意し，運転者や周囲の人の安全確保をはかってください。

＊運搬するときは，施肥機の部分には絶対にロープ掛けしないでください。
（施肥機が破損したり，施肥位置が狂って，肥料障害発生の原因になります。）

＊移動するときは，植付け部を上げ，フロートから下にでている溝切板や作溝器が路面などに当らないようにしてください。

ほ場の準備

従来の田植機作業の場合に準じますが，特に下記の事項を守るようにしてください。

〔1〕ワラ・堆肥などの夾雑物は，施肥田植作業時の障害になるので，なるべく地表面に出ないよう，耕うん時に十分スキ込んでから，代かきしてください。

（トラクタの逆転ロータリで耕うんするとワラ・堆肥などのスキ込みが良く施肥田植作業が楽です。）

補　足

＊堆肥やワラが表面に出ていると溝切板や作溝器に引掛けて，肥料の埋設を阻害したり植付けを乱したりします。

〔2〕この施肥田植機は，田植えと同時に基肥施肥をする機械ですから，耕うん・代かき時の化学肥料の基肥散布は，絶対に行なわないようにしてください。

（但し，基肥を全面散布と側条施肥に分施する農法を行なう場合には，その指定要領に従ってください。）

〔3〕施肥田植機に適したほ場の深さは，10～25cmが適しています。

〔4〕代かき時の均平度をよくして，地表面からの水深が，なるべく一定になるようにしてください。
代かき後，田面に凹凸がある場合，凸の部分が水面から露出していると土壌硬度が硬くなるので，十分湛水して，地表面の凹凸にかかわらず土の硬さを一定に保つようにし，田植えの直前に十分落水するようにしてください。
(土壌の硬軟差が大きいとふく土性能に影響します。)

〔5〕施肥田植作業時の水の深さは，浅水とし0.5～2cm程度が適当です。

＊田面の水が皆無(水深0cm)の場合には作業が困難ですから必ず走り水をしてください。水が皆無の場合には次のような支障を生じます。

❶車輪スリップが増し，株間が狭くなります。

❷作溝器に泥詰まりを生じ，ひいては肥料がつまって無施肥区ができ，生育ムラの原因となります。

❸車輪による泥のかき上げやフロートの泥押しを生じます。

＊田面の水が多すぎる(水深2cm以上)場合には，作溝器内の上部やホース内に水が浸入し肥料の落下状態が悪くなり，所定の深さに埋設できなくなります。また肥料詰まりも生じやすくなります。

〔6〕ほ場の土の硬さは泥を指でかいてみて後が少しふさがれる程度が適当です。

＊ほ場の土壌硬度(125gのサゲフリを地表面上1mの高さから落下させて，地表面から土中に入った深さ)は7～18cmの範囲内とします。

＊ほ場が軟かすぎるとフロートによる泥押しのため隣接条間の確保が困難になるばかりでなく，植付け姿勢も乱れる結果となります。

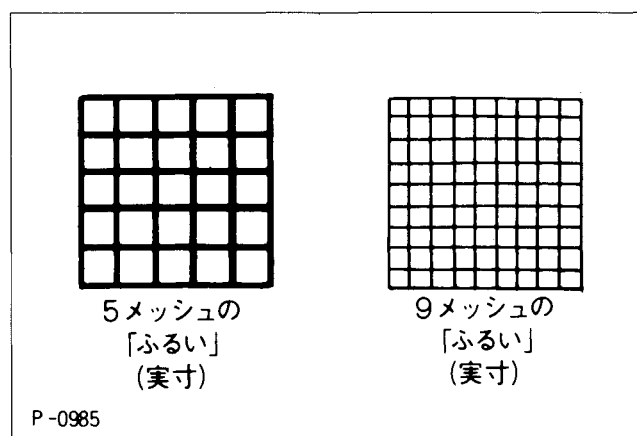
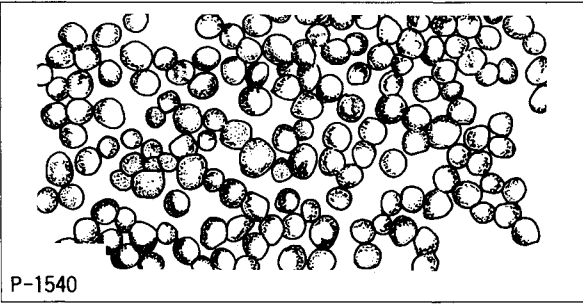
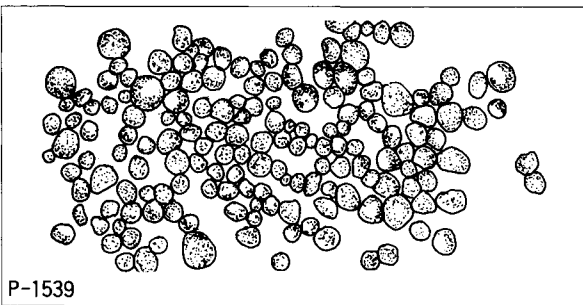
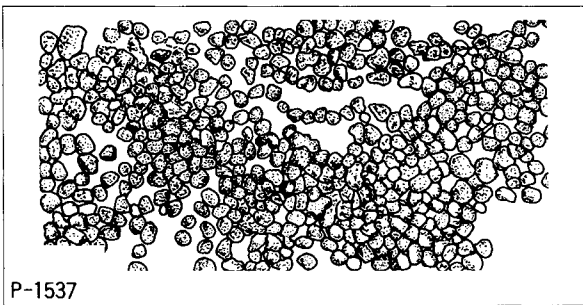
＊ほ場が硬すぎると車輪のスリップが増し，株間が狭くなるばかりでなく，作溝施肥跡のふく土が不完全となり肥料溶出の恐れがあります。

肥料の準備

(1)肥料は市販の粒状肥料を使いますが，種類がたくさんありますので，その中から下記の事項を参考にして施肥田植機に適したものを選んでください。

	適応性が良い肥料	適応性がよくない肥料	理　　由
1	粒がある程度大きい肥料(粒径2～4㎜)を選ぶ。	粒が細い肥料はさける。	①ホッパ・繰出し部・ロート・ホースなどへの肥料の付着を防ぎ，肥料の流れをよくして施肥量を均一にするため。 ②施肥深さの安定をはかるため。 ③肥料詰まりを防ぐため。
2	粉が少ない，又は粉になりにくい肥料を選ぶ。	粉の多い肥料はさける。	
3	吸湿しにくい肥料を選ぶ。	吸湿し易い肥料はさける。	肥料詰まりを防ぎ，肥料の繰出し・流れをよくして施肥量を均一にするため。
4	丸い形状の肥料を選ぶ。	角ばった不規則な形の肥料はさける。	繰出し部の摩耗を防ぎ，施肥量を均一にするため。
5	適当な硬度のものを選ぶ。(硬度1㎏/粒以上)	すぐつぶれる肥料はさける。	つぶれにくく，粉が出ないので詰まりが防げる。

(2)肥料は，一般市販の粒状肥料で，なるべく開封していない新しいものを使ってください。
また，同一種類のものを使うのが，機械の繰出し量調節のために便利です。

(3)肥料の粒の大きさは“ふるい”の目の荒さで5メッシュ(約4㎜角の穴)通過，9メッシュ(約2㎜角の穴)止まりの範囲のものが，85％程度以上あるのが適当です。

補　足

＊ふるい目5メッシュ止まりの大きい粒のものが多い肥料や，或いは，ふるい目9メッシュを通過する小さい粒が多いもの，特に粉状の多いものは適しませんので使用をさけてください。

(4)湿気を帯びた肥料や，長期保存していた肥料は，固まりをさけるため，使わないようにしてください。
(繰出しが正確にできない場合があります)

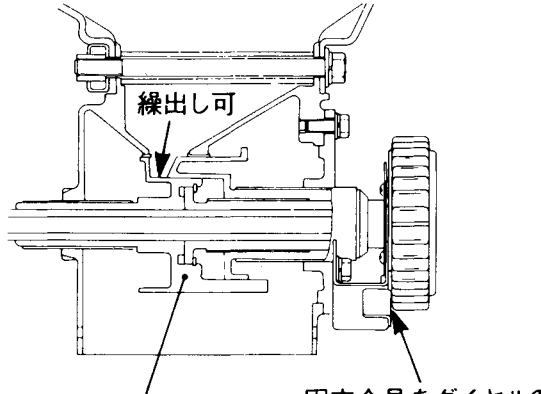
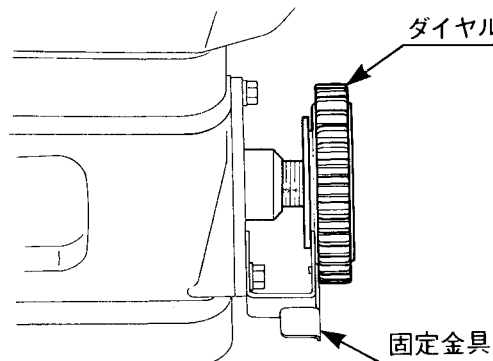
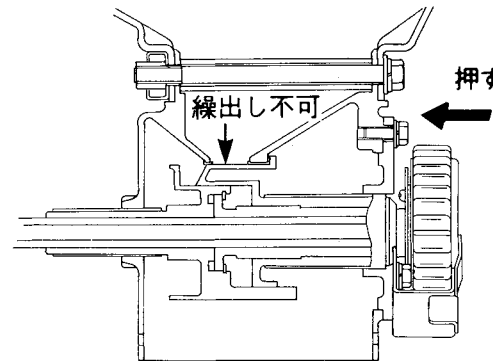
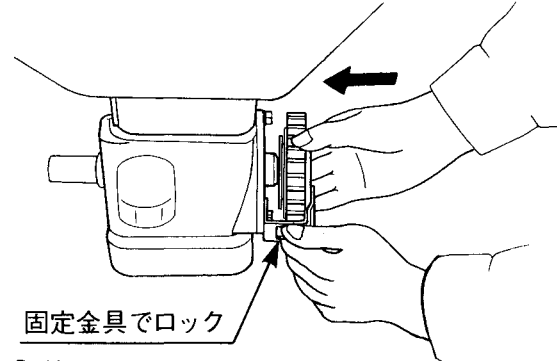
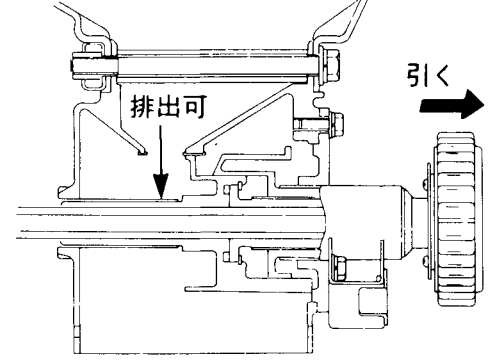
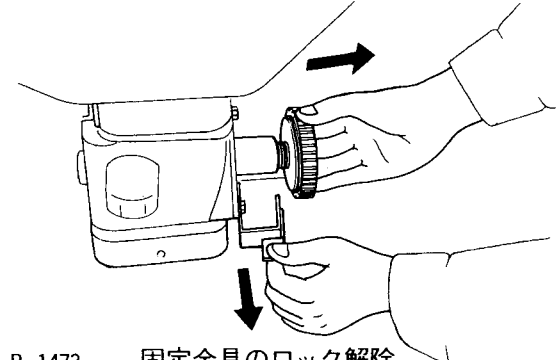
- 最近は施肥田植機用として，粒度調整をした肥料が販売されるようになりましたので，使用されるようおすすめします。

(5)肥料の見本例(実物と同じ大きさです。)

説明	見本	判定
形状が丸く大きさが適正（2 ～ 4 mm）で揃っており，細い粒や粉が少なく，吸湿しにくい。	P-1540	○ 適　当
粒の大きさが不揃い。	P-1539	△ やや不適当
粒が小さい。（2 mm以下が多い）	P-1537	× 不 適 当

(6)施肥田植機による作業を能率・精度よく行なうには，肥料詰まりが生じないようにすることが大切です。そのためには，吸湿しにくい性質の肥料を選んで購入する必要があります。

吸湿しにくい肥料の系統	吸湿しやすい肥料の系統
○　好ましい	×　好ましくない
●硫安系普通化成肥料で，コーティング剤を加えたもの ●硫リン安系高度化成 ●塩リン安系高度化成 ●尿素入りIB化成 ●ホルムチッソ入り化成 ●GUP複合リン加安 ●オキサミド入り化成(FOX化成) ●被覆尿素入り複合肥料(LPコート)	●尿素系普通化成 ●石灰チッソ入り普通化成 ●尿素有機入り普通化成 ●硝リン加安系高度化成 ●リン硝安カリ系高度化成 ●加リン硝安系高度化成

各部の調節，作業方法，はたらき

＊駆動部に接触すると手を傷つける恐れがあるので，肥料の排出のときはエンジンを必ず止めること。

肥料の繰出し，停止，排出の方法

この施肥機の特長として繰出しロールはスライド式になっていますので，それぞれの作業に合せて操作してください。

肥料繰出し状態	繰出し可 繰出しロール 固定金具をダイヤルの溝にセットする P -1474	ダイヤル 固定金具 P -1472
肥料の繰出し停止状態	押す 繰出し不可 P -1907	固定金具でロック P -1906
	あぜぎわ，枕地植えなどで１条だけ繰出し停止させたいときに操作します。	
肥料の排出状態	引く 排出可 P -1476	固定金具のロック解除 P -1473
	ホッパ内肥料の抜取りに便利です。 **重　要** ＊破損防止のため，肥料の排出が終ると，ロールを必ず肥料繰出し状態にして固定金具をダイヤルの溝にセットしてください。	

作業前の点検

注　意

＊駆動部に接触すると手を傷つけるおそれがあるため，施肥機の点検のときは必ずエンジンを止めること。

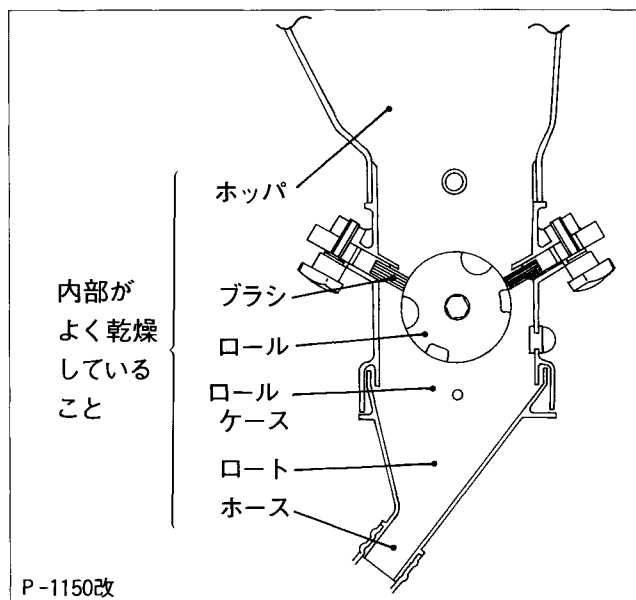
■田植機の点検

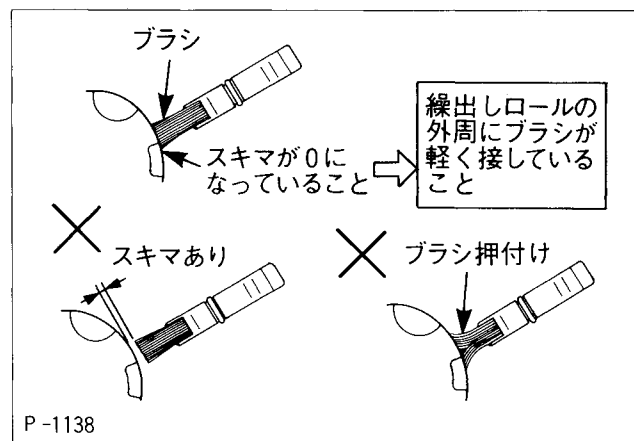
田植機の取扱説明書に従って，実施してください。

■施肥機の点検

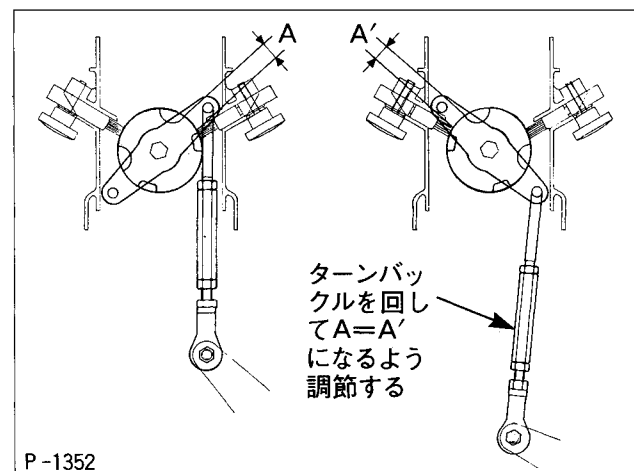
(1)ホッパ内が，きれいになっているか点検してください。
前回使用時の肥料が残っている場合には，必ず排出して中を掃除してください。

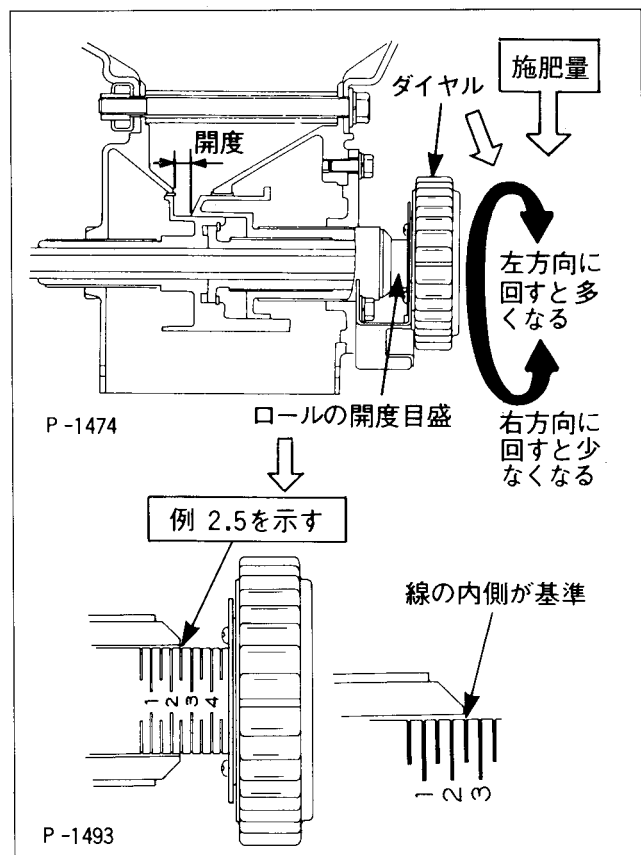
(2)エンジンをかけて各繰出しロールをスロー回転させて，前回使用時の残肥料がロール溝に詰まっていないか点検します。
もし肥料が付着しているときは，歯ブラシなどできれいに掃除してください。

(3)ホッパ内部・ロール部・ブラシなどが湿っていないか，よく点検をします。万一湿っている場合は，乾いた布でよくふいてください。
(ホッパ内部・ロールケース内部・ロール・ブラシなどは必ず乾燥していること)

(4)ブラシに肥料が付着していないか点検します。
掃除の要領
❶付属の掃除用ブラシで掃除する。
(21ページ参照)
❷取外して水洗・乾燥させ，組付ける。

(5)ホッパのふたを開け，ロールをのぞきブラシがロールに軽く均一に接しているか確認します。
❶ブラシをロールに無理に押付けないこと。
❷ブラシとロールの間にスキマがないこと。
❸ブラシが片減りした場合は，前後・上下差し換える。
❹摩耗が著しいときは，付属の予備ブラシと交換する。

(6)ロートやホース・作溝器の内側を点検し，肥料が付いているときは掃除をする。(20ページ参照)

(7)施肥機と田植機の接続部，その他各部のボルト・ナットの締付けが確実か点検してください。

(8)ロールの振分けが均等でないと計画通りの量を繰出させないので点検調整してください。

施肥量調節のしかた

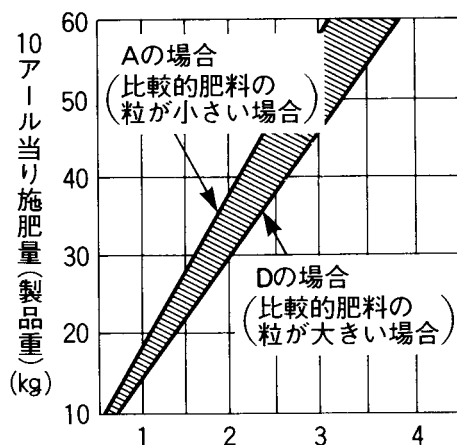
(1)ダイヤルを回すことにより，施肥量を変えられますので，**"施肥量調節グラフ"**(ホッパのふたの貼付銘板または取扱説明書の９ページ参照)を見て希望の施肥量になるように調節してください。

(2)施肥量調節目安グラフの使いかた

❶次ページのグラフは10アール当りの施肥量に対し，繰出しロールの開度を決めるときの目安にしてください。
(エンジン回転数3200rpmで設定)

❷実際には，肥料の種類・車輪のスリップ率などによって変わりますので，使用される機械・肥料で，ほ場確認の後，調整してください。

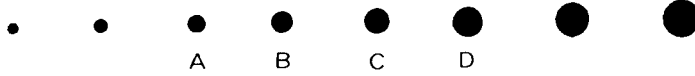
● ほ場内で繰出し量が適正か確認する方法

(まず５アール分の肥料を入れて作業を行ない，どれだけの面積の施肥ができたか見ます。そして肥料繰出し量の過不足によってロールの開度を調整します。)

❸グラフは次ページ図(P-0995)の 適合性が良い 肥料を使用した場合の施肥量とロール開度目盛の関係を示しています。
例えば，粒の大きさがＡくらいの肥料であればグラフの上側，またＤくらいの肥料であればグラフの下側を読みとってください。

❹繰出し量がかわる要素は，粒の大・小だけでなく，粒の形状・粒度分布・粒の硬さ・比重・吸湿性なども影響しますので注意してください。

補 足

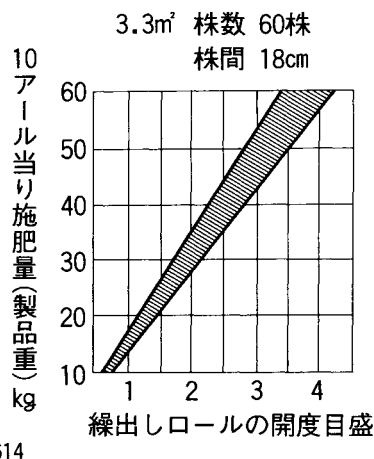
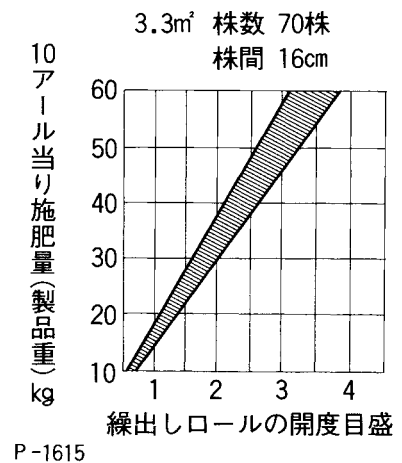
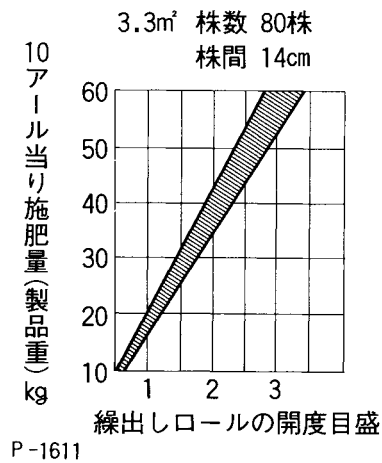
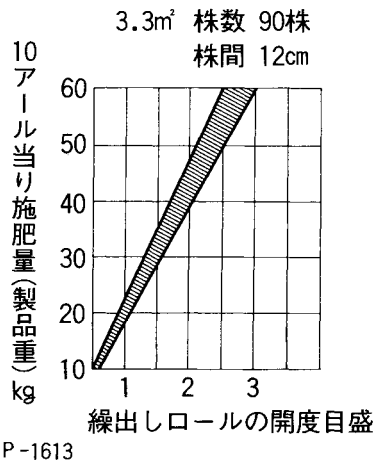
＊粒の大きさと施肥田植機への適合性の目安

A B C D

P -0995

不適合(小さすぎる)	適合性が良い	大きすぎる
●肥料詰まりを生じやすいので使用しないでください。		●繰出し量がグラフと合いません。(グラフよりも少なく出ますのでどうしても使用される場合には12ページの要領に従って予め繰出しテストを行なってから,ロールの開度を決めてください。)

肥料には大小の粒度のものが混合されておりますが，混入割合いの多い粒で見比べてください。

＊あらかじめ植付け株間を，下表のいずれかに決めてから，繰出し量調節グラフを見て，それぞれの株間に対応した開度目盛をさがしてください。(株間寸法はスリップ率15%のときを示す)

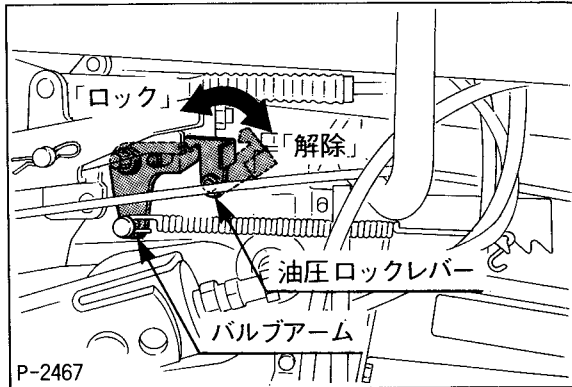
	SP-2, SP-4
3.3㎡当り株数	90, 80, 70, 60
株　間 (cm)	12, 14, 16, 18

◆**施肥量を決めるときの油圧ロックのしかた**

重　要

＊植付け作業のときは，忘れずに油圧ロックレバーを元の解除位置にしてください。

❶油圧レバーを機体の高さが適当になったところで“**固定**”にします。

❷油圧ロックレバーでバルブアームをロックします。

❸油圧レバーを“**下降**”にすると，機体は下がらず肥料の繰出しができます。

機械を適当な高さにして，油圧をロックして(上図参照)作溝器の下に洗面器などを置いて，肥料を受けてください。

肥料繰出し量の計算方法

下記の要領に基づいて希望の施肥量に対する繰出しロールの開度を設定するのが最も正確な方法です。

基本的な考え方

●確　認　事　項

(1)施肥田植機に適した肥料を選んで購入する。
（4，5ページ参照）

(2)10a当り基肥施肥量(製品重)を決める。
（慣行の20～30％減肥程度とするが地域によって異なるので普及所に相談する。
成分が異なる肥料の場合はN(ちっ素)を基準に減肥する。）

(3)条間の確認

(4)株間の設定

	SP-2，SP-4
3.3㎡当り株数	90，80，70，60
株　　間（cm）	12，14，16，18

●繰出し量のきめ方

目安グラフ(9ページ参照)を見てロールの開度を決める。

●確認のしかた

(1)10a当り植付計画株数の計算

$$10a株数 = \frac{面積(10a)}{条間 \times 株間}$$

(2)1株当り施肥量の計算

$$1株施肥量 = \frac{10a施肥量}{10a植付計画株数}$$

(3)エンジン回転をほ場作業で使用する程度に調整して，各繰出しロールごとに
1株施肥量×植付爪の回転数(苗の取回数)

例えば
- 稚苗の場合　横送り26株×10回＝260株
- 中苗の場合　横送り20株×10回＝200株
- 中苗の場合　横送り18株×15回＝270株

で繰出し量をはかり，ロールの開度修正が必要なら調整する。(測定には料理秤・洗面器・ビニール袋などを用意しておくと便利です)
測定は一条だけでなく，全条行なって誤差を調べ平均するのが良い。

計　算　例

肥料名　くみあい塩加燐安1号
〔成分　14－14－14〕

慣行40kg/10a施用の20％減肥
(即ち80％施用)とすると
40×0.8＝32kg/10a
実際の基肥施肥量

条間30cm
株数70(株間16cm)に設定

株数70(株間16cm)のグラフを適用するとロールの開度は2.0(目視)となるので，ダイヤルを回して合せる。

10a＝1000㎡

$$\frac{1000}{0.3 \times 0.16} = 20833株/10a$$

$$\frac{32000}{20833} = 1.54g/株$$

繰出し量の確認
稚苗，横送り26株取りで10行程
即ち260株分の繰出し量は，
1.54×260＝400.4g/260株
これに近い量が繰出されると良い。
実測結果がこれより
少なすぎる場合は開度を多くする
多すぎる場合は開度を少なくする
（再測定）

なお，10a当り施肥量と1株当り・260株(または200株・270株)当り繰出し量の関係を計算した表(12～17ページ)を利用すると便利である。

補　足

＊株間寸法の表示はスリップ率が15%のときです。
従ってほ場での実測株間が，これより狭い場合は肥料が計画より多く入り，広い場合は少なく入りますので，その分ロール開度を修正する必要があります。

肥料繰出し時のチェックを行ないたい場合は，下の表を利用すると便利です。（11ページの計算例参照）

■稚苗の場合

10ａ施肥量に対する260株分の肥料繰出し量早見表
苗のせ台横送り26株×10行程

（注：　g～　gは許容差±５％を見込んだ数値です。
±10％程度以内の誤差は，通常生育に悪影響を及ぼしません。）

10a施肥量 ＼ 3.3㎡株数 株間	60株 18cm	70株 16cm	80株 14cm	85株 13cm	90株 12cm
10kg	130g～145g	120g～130g	105g～115g	95g～105g	90g～100g
11	145 ～160	130 ～145	115 ～125	105 ～115	100 ～110
12	160 ～175	140 ～155	125 ～140	115 ～125	105 ～120
13	175 ～190	155 ～170	135 ～150	125 ～140	115 ～130
14	185 ～205	165 ～185	145 ～160	135 ～150	125 ～140
15	200 ～220	175 ～195	155 ～170	145 ～160	135 ～145
16	215 ～235	190 ～210	165 ～185	155 ～170	140 ～155
17	225 ～250	200 ～220	175 ～195	165 ～180	150 ～165
18	240 ～265	215 ～235	185 ～205	175 ～190	160 ～175
19	255 ～280	225 ～250	195 ～220	185 ～200	170 ～185
20	265 ～295	235 ～260	205 ～230	195 ～215	180 ～195
21	280 ～305	250 ～275	220 ～240	200 ～225	185 ～205
22	295 ～325	260 ～290	230 ～250	210 ～235	195 ～215
23	305 ～340	270 ～300	240 ～265	220 ～245	205 ～225
24	320 ～355	285 ～315	250 ～275	230 ～255	215 ～235
25	330 ～370	295 ～325	260 ～285	240 ～265	220 ～245
26	345 ～385	310 ～340	270 ～300	250 ～275	230 ～255
27	360 ～400	320 ～355	280 ～310	260 ～285	240 ～265
28	370 ～415	330 ～365	290 ～320	270 ～295	250 ～275
29	385 ～430	340 ～380	300 ～330	280 ～305	260 ～285
30	400 ～440	355 ～390	310 ～345	290 ～320	265 ～295
31	410 ～455	365 ～405	320 ～355	300 ～330	275 ～305
32	425 ～470	380 ～420	330 ～365	310 ～340	285 ～315
33	440 ～485	390 ～430	340 ～380	320 ～350	295 ～325
34	455 ～500	400 ～445	355 ～390	330 ～360	300 ～335
35	465 ～515	415 ～460	365 ～400	335 ～375	310 ～345
36	480 ～530	425 ～470	375 ～415	345 ～385	320 ～355
37	495 ～545	440 ～485	385 ～425	355 ～395	330 ～365
38	505 ～560	450 ～495	395 ～435	365 ～405	340 ～375
39	520 ～575	460 ～510	405 ～445	375 ～415	345 ～385
40	535 ～590	475 ～525	415 ～460	385 ～425	355 ～395
株数 1㎡当り	18.5株	20.8株	23.8株	25.6株	27.8株
株数 10a当り	18519株	20833株	23810株	25641株	27778株

（注：　g～　gは許容差±５％を見込んだ数値です。
　　±10％程度以内の誤差は，通常生育に悪影響を及ぼしません。）

10a施肥量 ＼ 3.3㎡株数 株間		60株 18cm	70株 16cm	80株 14cm	85株 13cm	90株 12cm
41kg		545g～605g	485g～535g	425g～470g	395g～435g	365g～405g
42		560 ～620	500 ～550	435 ～480	405 ～445	375 ～415
43		570 ～635	510 ～560	445 ～495	415 ～460	380 ～425
44		585 ～650	520 ～575	455 ～505	425 ～470	390 ～430
45		600 ～660	535 ～590	465 ～515	435 ～480	400 ～440
46		610 ～675	545 ～600	475 ～525	445 ～490	410 ～450
47		625 ～690	555 ～615	490 ～540	455 ～500	420 ～460
48		640 ～705	565 ～625	500 ～550	460 ～510	425 ～470
49		655 ～720	580 ～640	510 ～560	470 ～520	435 ～480
50		665 ～735	590 ～655	520 ～575	480 ～530	445 ～490
51		680 ～750	605 ～670	530 ～585	490 ～540	455 ～500
52		695 ～765	615 ～680	540 ～595	500 ～555	460 ～510
53		705 ～780	625 ～690	550 ～610	510 ～565	470 ～520
54		720 ～795	640 ～705	560 ～620	520 ～575	480 ～530
55		735 ～810	650 ～720	570 ～630	530 ～585	490 ～540
56		745 ～825	665 ～735	580 ～640	540 ～595	500 ～550
57		760 ～840	675 ～745	590 ～655	550 ～605	505 ～560
58		770 ～855	685 ～760	600 ～665	560 ～615	515 ～570
59		785 ～870	700 ～770	610 ～675	565 ～625	525 ～580
60		800 ～885	710 ～785	620 ～690	575 ～635	535 ～590
株数	1㎡当り	18.5株	20.8株	23.8株	25.6株	27.8株
	10a当り	18519株	20833株	23810株	25641株	27778株

計算法①10a施肥量÷10a株数＝［1株当り施肥量(g)］×260株＝［260株当り施肥量(g)］
(kgをgに換算)
苗のせ台横送り26株×10行程・１条分

② $\frac{260株分繰出し量(g)}{260}$ ×10a株数÷1000＝［10a施肥量(kg)］

③１株当り施肥量(g)＝ $\frac{10a施肥量(kg)\times 1000}{10a当り株数}$

■中苗の場合

10ａ施肥量に対する200株分の肥料繰出し量早見表
苗のせ台横送り20株×10行程

（注：　g～　gは許容差±５％を見込んだ数値です。
　　±10％程度以内の誤差は，通常生育に悪影響を及ぼしません。）

10a施肥量 ＼ 3.3㎡株数・株間		60株 18cm	70株 16cm	80株 14cm	85株 13cm	90株 12cm
10kg		105g～115g	90g～100g	80g～ 90g	75g～ 80g	70g～ 75g
11		115 ～125	100 ～110	90 ～ 95	80 ～ 90	75 ～ 85
12		125 ～135	110 ～120	95 ～105	90 ～100	80 ～ 90
13		135 ～145	120 ～130	105 ～115	95 ～105	90 ～100
14		145 ～160	130 ～140	110 ～125	105 ～115	95 ～105
15		155 ～170	135 ～150	120 ～130	110 ～125	105 ～115
16		165 ～180	145 ～160	130 ～140	120 ～130	110 ～120
17		175 ～195	155 ～170	135 ～150	125 ～140	115 ～130
18		185 ～205	165 ～180	145 ～160	135 ～145	125 ～135
19		195 ～215	175 ～190	150 ～170	140 ～155	130 ～145
20		205 ～225	180 ～200	160 ～175	150 ～165	135 ～150
21		215 ～240	190 ～210	170 ～185	155 ～170	145 ～160
22		225 ～250	200 ～220	175 ～195	165 ～180	150 ～165
23		235 ～260	210 ～230	185 ～205	170 ～190	155 ～175
24		245 ～270	220 ～240	190 ～210	180 ～195	165 ～180
25		255 ～285	230 ～250	200 ～220	185 ～205	170 ～190
26		265 ～295	235 ～260	210 ～230	195 ～215	180 ～195
27		275 ～305	245 ～270	215 ～240	200 ～220	185 ～205
28		285 ～315	255 ～280	225 ～245	205 ～230	190 ～210
29		295 ～330	265 ～290	230 ～255	215 ～240	200 ～220
30		310 ～340	275 ～300	240 ～265	220 ～245	205 ～225
31		320 ～350	285 ～310	245 ～275	230 ～255	210 ～235
32		330 ～365	290 ～325	255 ～280	235 ～260	220 ～240
33		340 ～375	300 ～335	265 ～290	245 ～270	225 ～250
34		350 ～385	310 ～345	270 ～300	250 ～280	235 ～255
35		360 ～395	320 ～355	280 ～310	260 ～285	240 ～265
36		370 ～410	330 ～365	285 ～320	265 ～295	245 ～270
37		380 ～420	335 ～375	295 ～325	275 ～305	255 ～280
38		390 ～430	345 ～385	305 ～335	280 ～310	260 ～285
39		400 ～440	355 ～395	310 ～345	290 ～320	265 ～295
40		410 ～455	365 ～405	320 ～355	295 ～330	275 ～300
株数	1㎡当り	18.5株	20.8株	23.8株	25.6株	27.8株
	10a当り	18519株	20833株	23810株	25641株	27778株

（注： g～ gは許容差±５％を見込んだ数値です。
±10％程度以内の誤差は，通常生育に悪影響を及ぼしません。）

10a施肥量 ＼ 3.3㎡株数 株間	60株 18cm	70株 16cm	80株 14cm	85株 13cm	90株 12cm
41kg	420g～465g	375g～415g	325g～360g	305g～335g	280g～310g
42	430 ～475	385 ～425	335 ～370	310 ～345	285 ～320
43	440 ～490	390 ～435	345 ～380	320 ～350	295 ～325
44	450 ～500	400 ～445	350 ～390	325 ～360	300 ～335
45	460 ～510	410 ～455	360 ～395	335 ～370	310 ～340
46	470 ～520	420 ～465	365 ～405	340 ～375	315 ～350
47	480 ～535	430 ～475	375 ～415	350 ～385	320 ～355
48	490 ～545	440 ～485	385 ～425	355 ～395	330 ～365
49	505 ～555	445 ～495	390 ～430	365 ～400	335 ～370
50	515 ～565	455 ～505	400 ～440	370 ～410	340 ～380
51	525 ～580	465 ～515	405 ～450	380 ～420	350 ～385
52	535 ～590	475 ～525	415 ～460	385 ～425	355 ～395
53	545 ～600	485 ～535	425 ～465	395 ～435	365 ～400
54	555 ～610	490 ～545	430 ～475	400 ～440	370 ～410
55	565 ～625	500 ～555	440 ～485	410 ～450	375 ～415
56	575 ～635	510 ～565	445 ～495	415 ～460	385 ～425
57	585 ～645	520 ～575	455 ～505	420 ～465	390 ～430
58	595 ～660	530 ～585	465 ～510	430 ～475	395 ～440
59	605 ～670	540 ～595	470 ～520	435 ～485	405 ～445
60	615 ～680	545 ～605	480 ～530	440 ～490	410 ～455
株数 1㎡当り	18.5株	20.8株	23.8株	25.6株	27.8株
株数 10a当り	18519株	20833株	23810株	25641株	27778株

計算法①10a施肥量÷10a株数＝［1株当り施肥量(g)］×200株＝［200株当り施肥量(g)］
（kgをgに換算）
苗のせ台横送り20株×10行程・１条分

② $\frac{200株分繰出し量(g)}{200}$ ×10a株数÷1000＝［10a施肥量(kg)］

③１株当り施肥量(g)＝ $\frac{10a施肥量(kg)\times1000}{10a当り株数}$

■中苗の場合

10ａ施肥量に対する270株分の肥料繰出し量早見表
苗のせ台横送り18株×15行程

（注：　g～　gは許容差±５％を見込んだ数値です。
　　±10％程度以内の誤差は，通常生育に悪影響を及ぼしません。）

10a施肥量 ＼ 3.3㎡株数 株間		60株 18cm	70株 16cm	80株 14cm	85株 13cm	90株 12cm
10kg		140g～155g	125g～135g	110g～120g	100g～110g	90g～100g
11		150 ～170	135 ～150	120 ～130	110 ～120	100 ～110
12		165 ～185	150 ～165	130 ～145	120 ～135	110 ～120
13		180 ～200	160 ～175	140 ～155	130 ～145	120 ～135
14		195 ～215	170 ～190	150 ～165	140 ～155	130 ～145
15		210 ～230	185 ～205	160 ～180	150 ～165	140 ～155
16		220 ～245	195 ～220	170 ～190	160 ～175	150 ～165
17		235 ～260	210 ～230	185 ～200	170 ～190	155 ～175
18		250 ～275	220 ～245	195 ～215	180 ～200	165 ～185
19		265 ～290	235 ～260	205 ～225	190 ～210	175 ～195
20		275 ～305	245 ～270	215 ～240	200 ～220	185 ～205
21		290 ～320	260 ～285	225 ～250	210 ～230	195 ～215
22		305 ～335	270 ～300	235 ～260	220 ～245	205 ～225
23		320 ～350	285 ～315	250 ～275	230 ～255	215 ～235
24		330 ～365	295 ～325	260 ～285	240 ～265	220 ～245
25		345 ～385	310 ～340	270 ～300	250 ～275	230 ～255
26		360 ～400	320 ～355	280 ～310	260 ～285	240 ～265
27		375 ～415	330 ～365	290 ～320	270 ～300	250 ～275
28		390 ～430	345 ～380	300 ～335	280 ～310	260 ～285
29		400 ～445	355 ～395	310 ～345	290 ～320	270 ～295
30		415 ～460	370 ～410	325 ～355	300 ～330	275 ～305
31		430 ～475	380 ～420	335 ～370	310 ～345	285 ～315
32		445 ～490	395 ～435	345 ～380	320 ～355	295 ～325
33		455 ～505	405 ～450	355 ～395	330 ～365	305 ～335
34		470 ～520	420 ～465	365 ～405	340 ～375	315 ～345
35		485 ～535	430 ～475	375 ～415	350 ～385	325 ～355
36		500 ～550	445 ～490	390 ～430	360 ～400	330 ～365
37		510 ～565	455 ～505	400 ～440	370 ～410	340 ～380
38		525 ～580	470 ～515	410 ～450	380 ～420	350 ～390
39		540 ～595	480 ～530	420 ～465	390 ～430	360 ～400
40		555 ～610	490 ～545	430 ～475	400 ～440	370 ～410
株数	1㎡当り	18.5株	20.8株	23.8株	25.6株	27.8株
	10a当り	18519株	20833株	23810株	25641株	27778株

（注：　g～　gは許容差±５％を見込んだ数値です。
　　±10％程度以内の誤差は，通常生育に悪影響を及ぼしません。）

10a施肥量 ＼ 3.3㎡株数・株間		60株 18cm	70株 16cm	80株 14cm	85株 13cm	90株 12cm
41kg		570g～630g	505g～560g	440g～490g	410g～455g	380g～420g
42		580　～645	515　～570	450　～500	420　～465	390　～430
43		595　～660	530　～585	465　～510	430　～475	395　～440
44		610　～675	540　～600	475　～525	440　～485	405　～450
45		625　～690	555　～610	485　～535	450　～500	415　～460
46		635　～705	565　～625	495　～550	460　～510	425　～470
47		650　～720	580　～640	505　～560	470　～520	435　～480
48		665　～735	590　～655	515　～570	480　～530	445　～490
49		680　～750	605　～665	530　～585	490　～540	450　～500
50		695　～765	615　～680	540　～595	500　～555	460　～510
51		705　～780	630　～695	550　～605	510　～565	470　～520
52		720　～795	640　～710	560　～620	520　～575	480　～530
53		735　～810	655　～720	570　～630	530　～585	490　～540
54		750　～825	665　～735	580　～645	540　～595	500　～550
55		760　～840	675　～750	595　～655	550　～610	510　～560
56		775　～855	690　～760	605　～665	560　～620	515　～570
57		790　～875	700　～775	615　～680	570　～630	525　～580
58		805　～890	715　～790	625　～690	580　～640	535　～590
59		815　～905	725　～805	635　～705	590　～650	545　～600
60		830　～920	740　～815	645　～715	600　～665	555　～610
株数	1㎡当り	18.5株	20.8株	23.8株	25.6株	27.8株
	10a当り	18519株	20833株	23810株	25641株	27778株

計算法①10a施肥量÷10a株数＝［1株当り施肥量(g)］×270株＝［270株当り施肥量(g)］
　　　（kgをgに換算）
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　苗のせ台横送り18株×15行程・1条分

② $\frac{270株分繰出し量(g)}{270}$ ×10a株数÷1000＝［10a施肥量(kg)］

③1株当り施肥量(g)＝ $\frac{10a施肥量(kg)\times1000}{10a当り株数}$

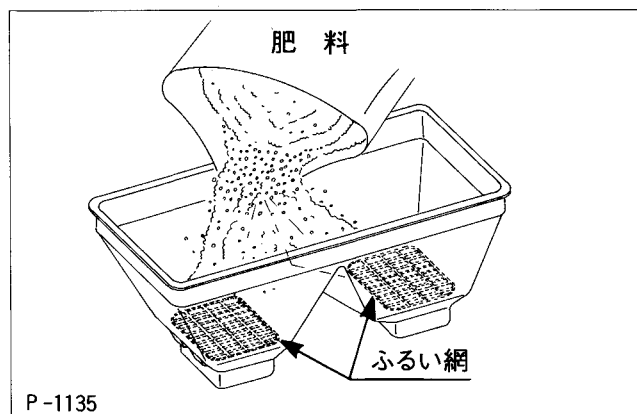
施肥作業時の注意

植付け作業は田植機の取扱説明書にしたがってください。

■肥料取扱いの注意

(1)機械と肥料は，別々にほ場まで運んでから，肥料を入れてください。(機械に肥料を入れてから運搬しないでください。)

(2)ホッパへ肥料を入れる場合，必ずホッパ内の“ふるい網”を通して，肥料が繰出し部内へ入るようにしてください。(繰出しのトラブルを防ぐため)

P-1135

※“ふるい網”を通過できない大きさの肥料は，取除くか，ほぐすかしてください。

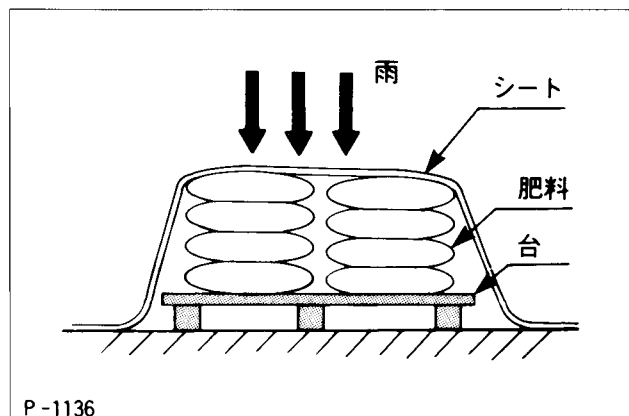
補　足

＊各条ごとに仕切内の量を揃えるようにしてください。

＊補給するとき各条ごとの残量に差がある場合は，その条の調節ダイヤルを回して調節してください。

◆雨天作業

(1)降雨時においては，肥料及び肥料袋がぬれないよう注意してください。

P-1136

(2)雨天のときのホッパへの肥料補給は手ばやく行なって，なるべくぬれないようにしてください。

(3)雨天時の作業はなるべくさけること。また吸湿しやすい肥料や粉の多い肥料は，絶対に使用しないこと。肥料詰りがないかときどき点検すること。

(4)作業後，肥料袋に肥料が残った場合は，再使用に支障がないよう，開口部をヒモでよくしばって，湿気の少ないところに保管してください。

■肥料詰まりをおこさないための注意

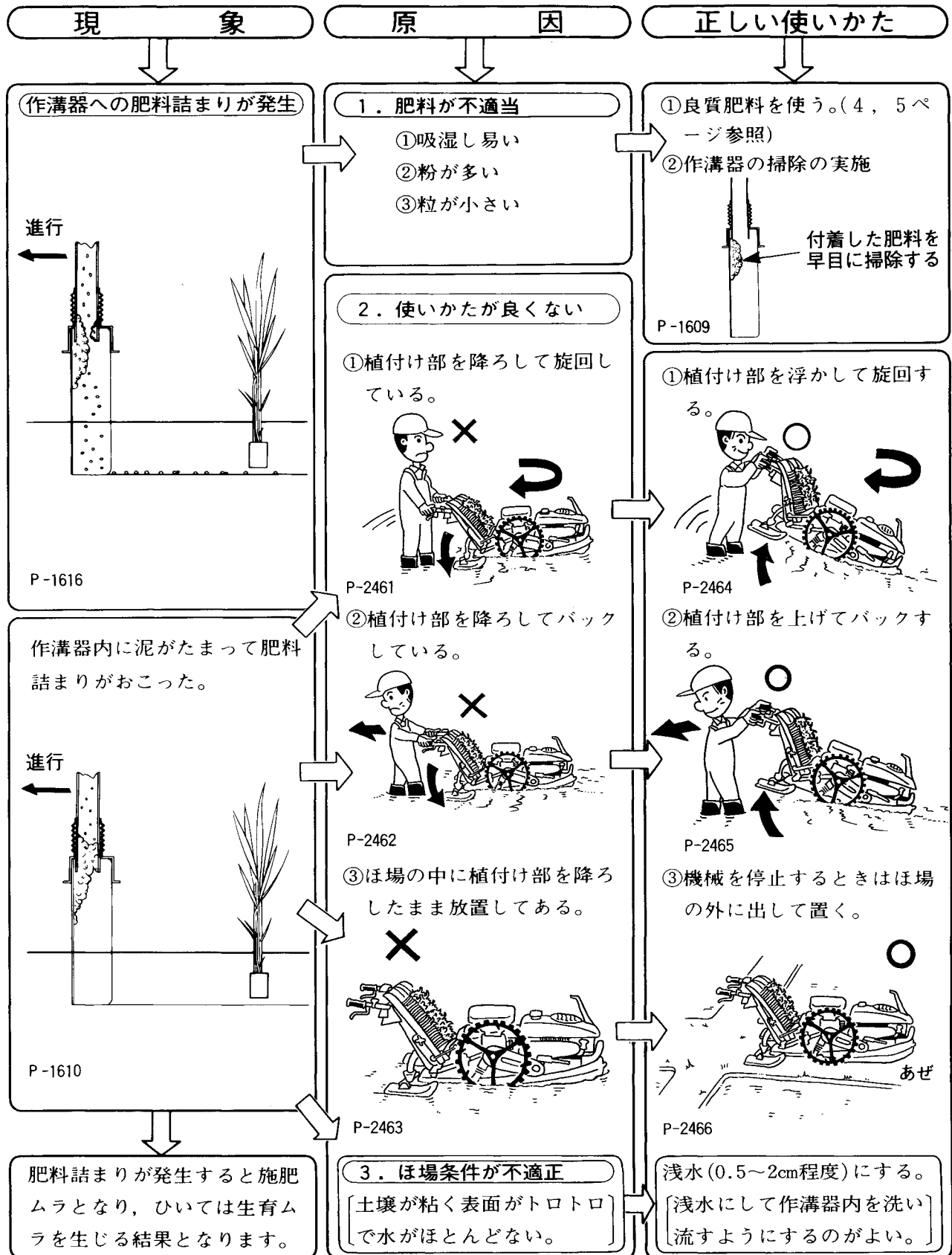
作溝器への肥料詰まりは下記のような場合に発生し易いので，正しい使いかたをして肥料詰まり（生育ムラの原因）を防ぐようにしましょう。

肥料詰まりが発生すると施肥ムラとなり，ひいては生育ムラを生じる結果となります。

3．ほ場条件が不適正

［土壌が粘く表面がトロトロで水がほとんどない。］

浅水（0.5～2cm程度）にする。

［浅水にして作溝器内を洗い流すようにするのがよい。］

■掃除用ブラシの使いかた

◆使いかたA

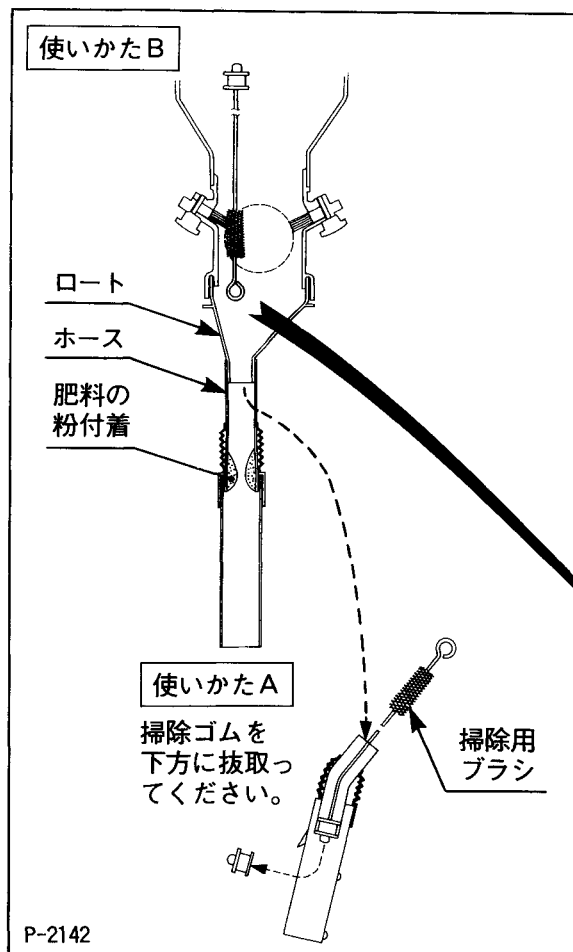
ホースの下部に肥料の粉や粒子が付着している場合には，ロートからホースを抜取って，これを掃除ブラシなどで落としてください。

❶乾いた肥料の場合はブラシ側で掃除を行なって，肥料を落としてください。

❷湿った肥料がついた場合は，反対にゴムの方で掃除すると水分もなくなり，きれいに掃除できます。
ブラシは次の理由で上から差し込んで，下から抜く方法で使用してください。

● 湿りのある場合は，湿りを上に持上げない。

◆使いかた

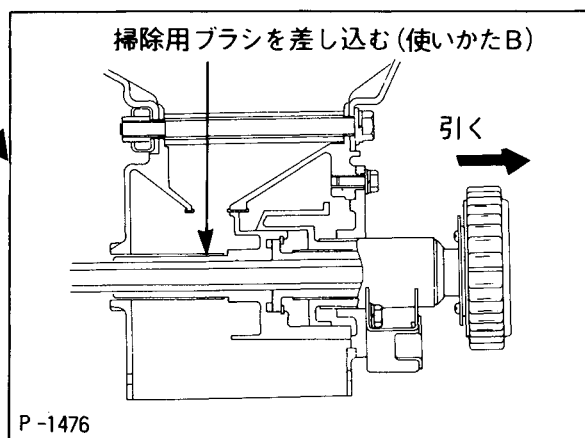
施肥機のブラシに付着している肥料粉を除きたいときは，ホッパの肥料を抜取った後，ロールをスライドさせて排出状態にしてから掃除用ブラシのブラシ側を施肥機のブラシとロールの間に差込んで，上下に動かしてください。

■洗車のしかた

(1)施肥機を洗車するときは，水がホッパ内やロールブラシにかかると，肥料が湿って付着したり，かたまったりして肥料の繰出しに悪影響を及ぼすので注意してください。

(2)毎日の洗車は，施肥機のフロート部を中心に洗って，ホッパ部には直接水をかけないように注意してください。

補　足

＊肥料詰まり防止のため，ホッパ内の肥料は毎日使用後，必ず排出しておくようにしましょう。(排出の要領は6，22ページ参照)

＊エンジンを止めてほ場内に置くと，植付け部が沈下してホース下部が水にぬれたり，水蒸気が上がってホース内が湿ったり，泥が詰まったりして肥料詰まりの原因になるので，ほ場内でエンジンを止めて放置しないでください。

あぜぎわ・枕地植えのしかた

(1)あぜぎわ・枕地植えで，どれかの条の肥料繰出しを停止させたい場合には，その条の調節ダイヤルを押込んでロールをスライドさせてください。（6ページ参照）

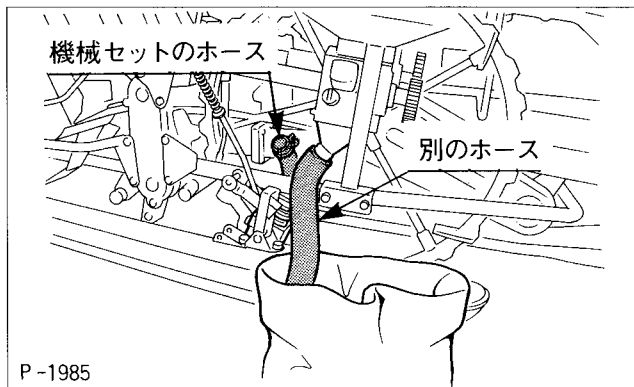
(2)施肥機を使用する場合に，枕地植えの寸法は，正確にとってください。
ダブッて植えたり，植え残して手で植えたりすると**施肥ムラ**の原因になります。四隅などの手で植える所には，忘れず事前に肥料を散布して**施肥ムラ**が起こらないようにしてください。

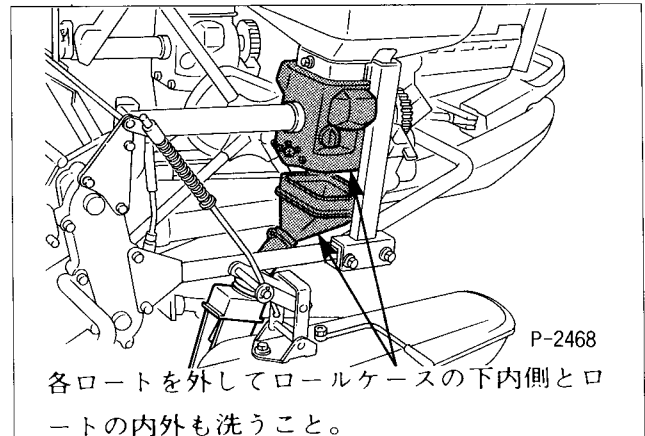
毎日使用後の手入れ

(1)ホッパ内の肥料は，毎日必ず，完全に排出してください。(排出の要領は6ページと下記を参照)

(2)肥料排出後，施肥機を空運転して，ロールの溝などに残っている肥料を完全に掃除してください。

●泥が入らない肥料排出の方法

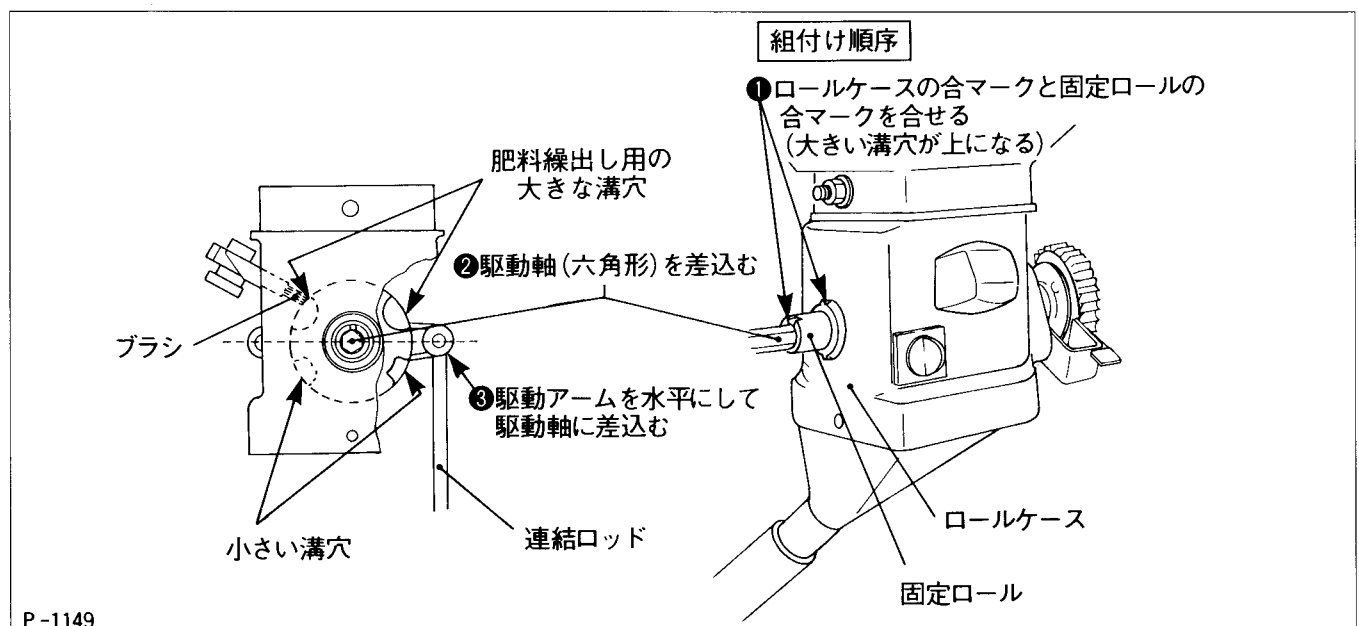
ロートに付いているホースを外して，市販の長いホース(内径30㎜，外径35㎜，長さ1m程度のビニールホース)を差込んで行なうと肥料の中に泥が入らなくて排出でき便利です。

(3)肥料排出後天気のよいときに，空運転しながら，ホッパ内・繰出し部内・ブラシ・ロート内・ホース内・作溝器内部をよく水洗いしてから，十分自然乾燥させてください。

各ロートを外してロールケースの下内側とロートの内外も洗うこと。

(4)機体は良く水洗いして付着している泥や肥料を取除いてください。

(5)塗装のはげた部分は，肥料による腐蝕を防ぐため必ず塗装しておいてください。

保守点検のしかた

■肥料繰出しロールの組付け

肥料繰出し部を分解して再組立てする場合には，ロールの組付け方向と駆動アームの組付け方法に注意してください。

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は製造打ち切り後9年といたします。
ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的には上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因となります。

株式会社クボタ

事業所	所在地	郵便番号	電話	
本社	大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号	〒556-8601	電(06)	648-2111
東京本社	東京都中央区日本橋室町３丁目１番３号	〒103-8310	電(03)	3245-3111
北海道支社	札幌市中央区北３条西３丁目１番地44(札幌富士ビル)	〒060-0003	電(011)	214-3111
東北支社	仙台市青葉区本町２丁目15番11号	〒980-0014	電(022)	267-9000
中部支社	名古屋市中村区名駅３丁目22番８号(大東海ビル)	〒450-0002	電(052)	564-5111
九州支社	福岡市博多区博多駅前３丁目２番８号(住友生命博多ビル)	〒812-0011	電(092)	473-2401
札幌支店	札幌市西区西町北16丁目１番１号	〒063-0061	電(011)	662-2121
仙台支店	名取市田高字原182番地の１	〒981-1221	電(022)	384-5151
東京支店	浦和市西堀５丁目２番36号	〒338-0832	電(048)	862-1121
大阪支店	大阪府堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号	〒590-0806	電(0722)	41-8506
岡山支店	岡山市宍甘275番地	〒703-8216	電(0862)	79-4511
福岡支店	福岡市東区和白丘２丁目２番76号	〒811-0213	電(092)	606-3161
堺製造所	堺市石津北町64番地	〒590-0823	電(0722)	41-1121
宇都宮工場	宇都宮市平出工業団地22番地２	〒321-0905	電(0286)	61-1111
筑波工場	茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-2402	電(0297)	52-5112
枚方製造所	枚方市中宮大池１丁目１番１号	〒573-0004	電(0720)	40-1121
西日本総合部品センター	堺市築港新町３丁８番	〒592-8331	電(0722)	45-8601
東日本総合部品センター	茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-2402	電(0297)	52-0510
北海道部品センター	北海道北広島市大曲工業団地３丁目１番地	〒061-1274	電(011)	376-2335
九州部品センター	福岡市東区和白丘２丁目２番76号	〒811-0213	電(092)	606-3161
株式会社クボタアグリ東北				
秋田事業所	秋田市寺内字大小路207-54	〒011-0901	電(0188)	45-1601
仙台事業所	宮城県名取市田高字原182番地の１	〒981-1221	電(022)	384-5151
株式会社クボタアグリ東京				
東京事業所	浦和市西堀５丁目２番36号	〒338-0832	電(048)	862-1121
新潟事業所	新潟市上所上１-14-15	〒950-0992	電(025)	285-1261
株式会社クボタアグリ大阪				
金沢事業所	石川県松任市下柏野町956-１	〒924-0038	電(0762)	75-1121
名古屋事業所	愛知県一宮市観音町１番地の１	〒491-0031	電(0586)	24-5111
大阪事業所	大阪府堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号	〒590-0806	電(0722)	41-8550
株式会社クボタアグリ中四国				
米子事業所	米子市米原７丁目１番１号	〒683-0804	電(0859)	33-5011
岡山事業所	岡山市宍甘275番地	〒703-8216	電(0862)	79-4511
高松事業所	香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-３	〒769-0102	電(0878)	74-5091
株式会社クボタアグリ九州				
福岡事業所	福岡市東区和白丘２丁目２番76号	〒811-0213	電(092)	606-3161
熊本事業所	熊本県下益城郡富合町大字廻江846-１	〒861-4147	電(096)	357-6181

品番　PC250―9691―2

Kubota